

沼津高架P Iプロジェクト



第10回P I委員会 審議事項

【第10回P I委員会】

【審議事項 1】
ステップ 3 のプロセス評価について

ステップ3におけるP I委員会の評価視点

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか	ステップ3では具体的な地域づくりの方策(代替素案)を取りまとめるため、勉強会などの場では対立につながりやすいと考えられる。このため、様々な提案される方策に関して、相互に理解が進むような運営がなされているか？また、市民が自ら地域づくりの方策(代替素案)をより良くするための運営がなされているか？
2	どのステップの検討をしているか明確にしながらかを進めているか	ステップ3の検討段階であることが明示され、目的に沿った議論が誤解なくできるような努力がなされているか？
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか	ステップ3の議論においては、それぞれの具体的方策を批判しあうことも予想される。このため、次ステップ以降の議論との混同を避けるとともに、議論が次ステップへと円滑に移行できるよう考慮して進めているか？
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか	多様な利害関心があるなかで、一定の共有化がなされた「地域づくりの目標」を共通の立脚点として、常にそこに立ち返りながら、議論の流れを確認するといった丁寧な進め方がなされているか？

ステップ3におけるP I 委員会の評価視点

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか	広報紙やオープンハウスなどの機会に限らず、車座談議などの直接的な双方向コミュニケーションの機会を引き続き設けるとともに、女性や若年層、各種の企業など、これまでコンタクトが少ないステークホルダーも含め、幅広い対象とのコミュニケーションを継続しているか？
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか	勉強会での議論の状況を広報紙や車座談議などの手法を通じて広く共有するとともに、多様な意見を把握し、論点を整理しながら進めているか？議論に必要な情報は適切に提供されているか？
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか	<u>PI委員会の助言</u> に対して、適切な対応がなされているか？ 1)女性や若年層を含め、より広範に議論の経過を継続的に情報提供すること。 2)時間管理概念を再度認識し、俯瞰的な議論となるよう努めること。 3)地域づくりの目標に立ち返りながら互恵的な議論とすること。
8	その他	勉強会は、意図的な議論の打ち切りや遅延行為など不適切な運営はなく、適切な議論や時間管理がなされているか？

ステップ3における自己点検

	実施計画での評価の視点	ステップ3での評価の視点
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか	広報紙やオープンハウスなどの機会に限らず、 <u>車座談議などの直接的な双方向コミュニケーションの機会を引き続き設けるとともに、女性や若年層、各種の企業など、これまでコンタクトが少ないステークホルダーも含め、幅広い対象とのコミュニケーションを継続しているか？</u>

【前回の自己点検】

- 5/29時点では、合同勉強会が終了したばかりであり、幅広い層の市民や関係者の方々と十分コミュニケーションが取れたとは言い難い。今後、車座談議やオープンハウスを積極的に実施していく。



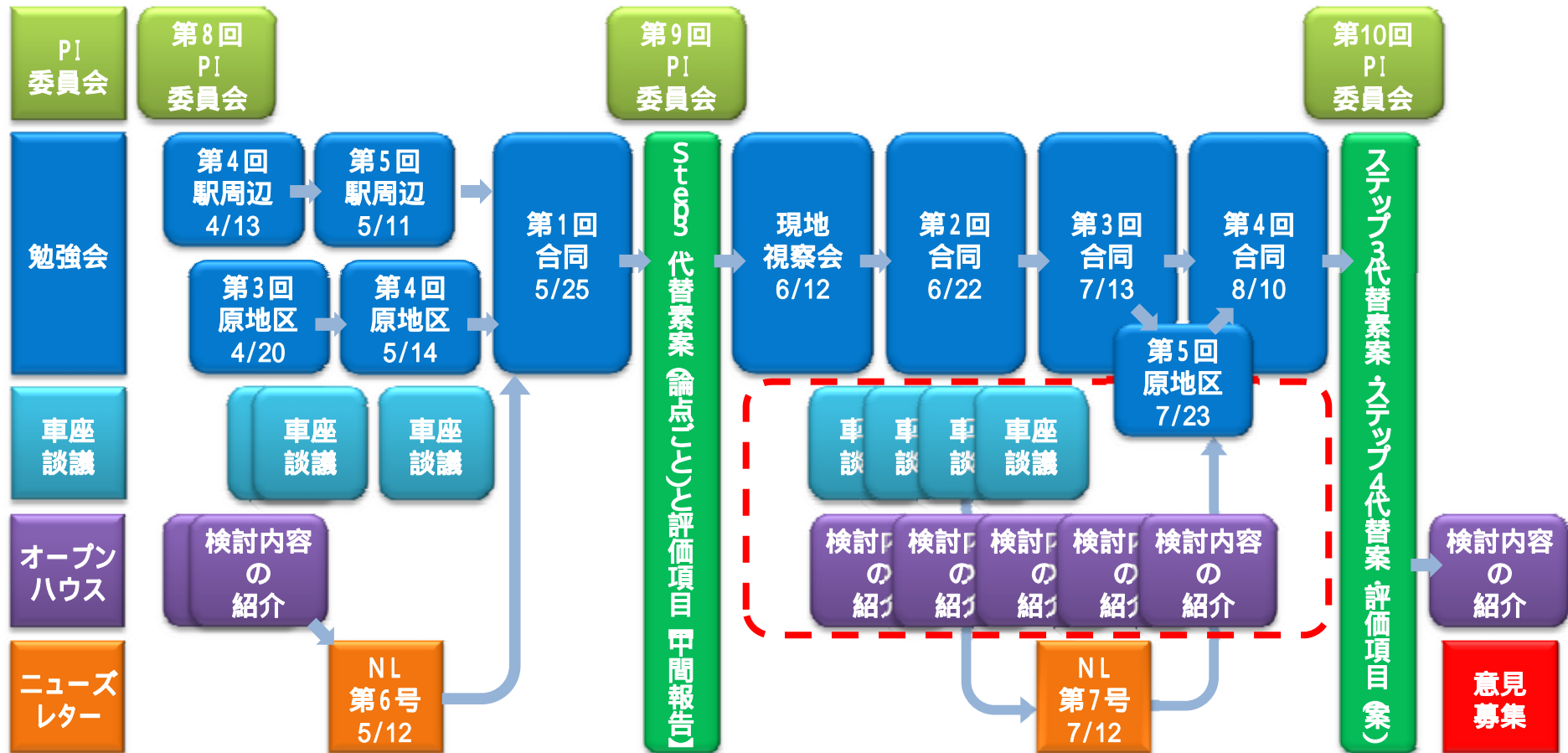
【今回の自己点検】

- 勉強会の成果をオープンハウス、車座談議及びニュースレターで広く情報提供した。

ステップ3、ステップ4の流れ

Step 3
代替素案(論点ごと)と評価項目の設定

Step 4
パッケージ化



【審議事項 2】
ステップ4のプロセス評価について

ステップ4におけるP Iの評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか	代替素案に関して、相互理解が進み、互恵的解決に向けた議論がなされるような運営が行われているか？
2	どのステップの検討をしているか明確にしながら進めているか	新たな代替素案の追加検討を行う場合、その旨を明確にしながらステップ4と区別して進められているか？
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか	各地区における利害関心と、両地区を合わせた全体としての利害関心が混乱しないように整理しながら進められているか？
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか	利害関心の多様性を前提としつつ、一定の共有化がなされた「地域づくりの目標」を共通の立脚点として、常にそこに立ち返りながら議論を積み上げるといった丁寧な進め方がされているか？

ステップ4におけるP Iの評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか	<p>広報紙やオープンハウスなどを用いて市民的議論としての幅の広さが保たれているか？</p> <p>車座談議などの直接的な双方向コミュニケーションの機会を通じて、様々なステークホルダー(利害関係者)との対話が継続されているか？</p>
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか	<p>勉強会においてどのような議論がなされているのか、広く共有されているか？</p> <p>勉強会での議論の状況に則した情報を提供し、論点を絞り込んだ意見の把握がされているか？</p> <p>実現可能性やコスト、その効果などの技術情報が判断の重要な要素となるため、様々な代替案を予断なく検討し、その結果が幅広く情報提供されているか？</p>
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか	<p>PI委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか？</p> <p>1)女性や若年層を含め、より広範に議論の経過を継続的に情報提供すること。</p> <p>2)時間管理概念を再度認識し、俯瞰的な議論となるよう努めること。</p> <p>3)地域づくりの目標に立ち返りながら互恵的な議論とすること。</p>

ステップ4におけるP Iの評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか	代替素案に関して、 <u>相互理解が進み、互恵的解決に向けた議論がなされる</u> ような運営が行われているか？

【自己点検】

- 勉強会は駅周辺地区と原地区の参加者が一堂に会して議論し、市民目線で両地区の考え方を確認し合った。また、現地視察会を実施し、お互いの考え方や視点を交換できた。
- 鉄道高架事業に対する賛成・反対についての議論ではなく、地域づくりの目標を達成するための具体的な方策として、代替案を検討した。

ステップ4におけるP Iの評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
2	どのステップの検討をしているか明確にしながら進めているか	<u>新たな代替素案の追加検討を行う場合、その旨を明確にしながらステップ4と区別して進められているか？</u>

【自己点検】

- 勉強会や広報誌、オープンハウスで提供する資料には、この議論がどのステップの検討なのかを明示した。
- 代替素案検討のためにコストや期間を提示したため、他の案の批判や比較に関する意見も一部にはあったが、ステップ5で行う比較評価の議論に入り込まないよう運営できた。

ステップ4におけるP Iの評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか	各地区における利害関心と、両地区を合わせた全体としての <u>利害関心が混乱しないように整理しながら進められているか？</u>

【自己点検】

- ステップ3と4は相互に関係が深いため、並行して進めることとしたが、概ね代替素案(ステップ3)の議論を終えてから代替案(ステップ4)の議論を行い、両者が混乱しないよう運営した。
- 駅周辺地区と原地区の代替素案を組合せた代替案がどのような案なのか確認しながら議論を進めたことで、両地区のバランスや全体としての事業期間など、個別地区の議論と区別した検討ができた。

ステップ4におけるP Iの評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか	利害関心の多様性を前提としつつ、一定の共有化がなされた「 <u>地域づくりの目標</u> 」を共通の立脚点として、常にそこに立ち返りながら議論を積み上げるといった丁寧な進め方がされているか？

【自己点検】

- 勉強会では、特定の代替案や評価項目ばかりを主張する意見もあったが、ファシリテーターの進行のもと、繰り返し「地域づくりの目標」に立ち返りながら議論がされた。
- 一部で特定の代替案に対する反発もあったが、そのこと自体も周囲は冷静に受け止め、各案を予断なく検討できた。

ステップ4におけるP Iの評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか	広報紙やオープンハウスなどを用いて <u>市民的議論としての幅の広さが保たれているか？</u> 車座談議などの直接的な <u>双方向コミュニケーションの機会を通じて、様々なステークホルダー(利害関係者)との対話が継続されているか？</u>

【自己点検】

- 勉強会の成果をオープンハウスやニュースレターで広く情報提供した。
- 勉強会に参加している各種団体から高校生まで多くの主体を対象に車座談議を実施した。
- ホームページ、FAXで常時意見を募集している。

ステップ4におけるP Iの評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか	勉強会においてどのような議論がなされているのか、広く共有されているか？ 勉強会での議論の状況に則した情報を提供し、 <u>論点を絞り込んだ意見の把握がされているか？</u> <u>実現可能性やコスト、その効果などの技術情報が判断の重要な要素となるため、様々な代替案を予断なく検討し、その結果が幅広く情報提供されているか？</u>

【自己点検】

- 車座談議を積極的に実施し、勉強会における議論の共有に努めた。
- 勉強会では、ファシリテーターを通じ、議論の状況に即して必要とされる情報を把握し、提供した。
- オープンハウスでは勉強会で使用した資料を掲出し、議論の内容を幅広く共有した。

ステップ4におけるP Iの評価の視点

	実施計画での評価の視点	ステップ4での評価の視点
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか	<u>PI委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか？</u> 1)女性や若年層を含め、より広範に議論の経過を継続的に情報提供すること。 2)時間管理概念を再度認識し、俯瞰的な議論となるよう努めること。 3)地域づくりの目標に立ち返りながら互恵的な議論とすること。

【自己点検】

- オープンハウスの会場は、女性からの意見を取り込みやすい場所を意識して選定した。
- 車座談議を静岡県立沼津工業高等学校と実施し、若年層の意見を聴取した。
- 勉強会の実施においては、先々の日程を公表し、計画的に検討を進めることにより時間管理を行いながら検討内容の質の向上に努めた。

ステップ4における自己点検 総括

- ◆オープンハウスや車座談議など、議論の輪を広げる取組みを積極的に実施した。その際、女性や若年層などの様々な主体の意見を取り込むように努めた。
- ◆勉強会は駅周辺地区と原地区の参加者が一堂に会しての開催とし、相互理解が進むよう運営し、参加者からは「意見は出尽くした」との発言もあった。

次回勉強会(8/31)からステップ5の議論を始める。

【審議事項3】
ステップ5のプロセス評価について

ステップ5の趣旨

目標の設定

Step2: 地域づくりの目標

広域的な地域づくりの目標

広域的な中心に(拠点)

交流拠点としての賑わいを(交流)

何もせずに過ごすのは問題(戦略)

税金は効果的に使ってほしい(財政と事業効果)

沼津駅周辺地区の地域づくりの目標

誰もが暮らしやすく暮らし)

多くの人が集う街に(交流)

持続的な経済活動と雇用機会を(産業・雇用)

中も外も移動しやすく(交通)

地震や津波にも強い地域に(防災)

原地区の地域づくりの目標

自然豊かな暮らしを(暮らし)

人が集まる魅力ある地域に(交流)

地域に活力を(産業・雇用)

広域も南北も移動しやすく(交通)

水害にも津波にも強い地域に(防災)

目標達成の方策

Step3: 代替素案(論点ごと)と評価項目

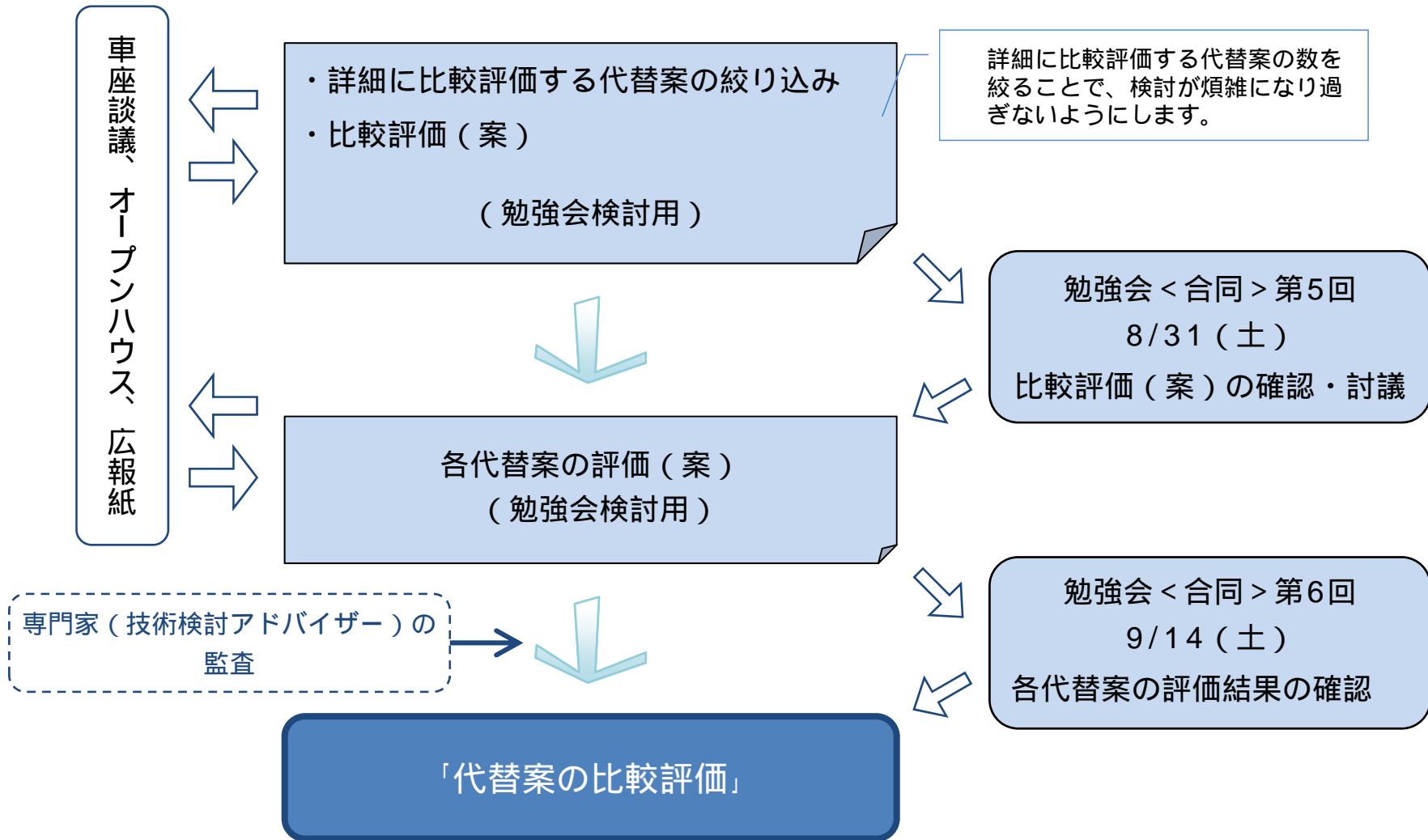
Step4: 代替案(パッケージ)と評価項目

評価の実施

Step5: 代替案の比較評価

これらの目標を達成する上で各代替案はどのような結果をもたらすのだろうか?

ステップ5の進め方



ステップ5におけるP Iの評価の視点(案)

	実施計画での評価の視点	ステップ5での評価の視点(案)
1	多様な利害や関心を調整して互恵的な解決を模索しているか	代替案が多様な観点から評価され、互恵的な解決を模索しているか？
2	どのステップの検討をしているか明確にしながら進めているか	ステップ5は代替案の比較評価の段階であって、新たな代替案や評価項目を考えるステップ(ステップ3,4)や推奨案を選定するステップ(ステップ6)ではないことが明確にされているか？
3	議論が混乱しないよう、各ステップの趣旨に応じた検討を行っているか	代替案の評価結果やその意味を十分に理解し、共有できるような検討を行っているか？ 検討の内容が本来ステップ6で行う推奨案の選定と区別されているか？
4	多様な利害や関心を踏まえた上で、目標や代替案、評価項目を設定しているか	ステップ5における代替案の比較評価は、ステップ2で共有した地域づくりの目標に対する評価であることが十分に理解されるように進められているか？

ステップ5におけるP Iの評価の視点(案)

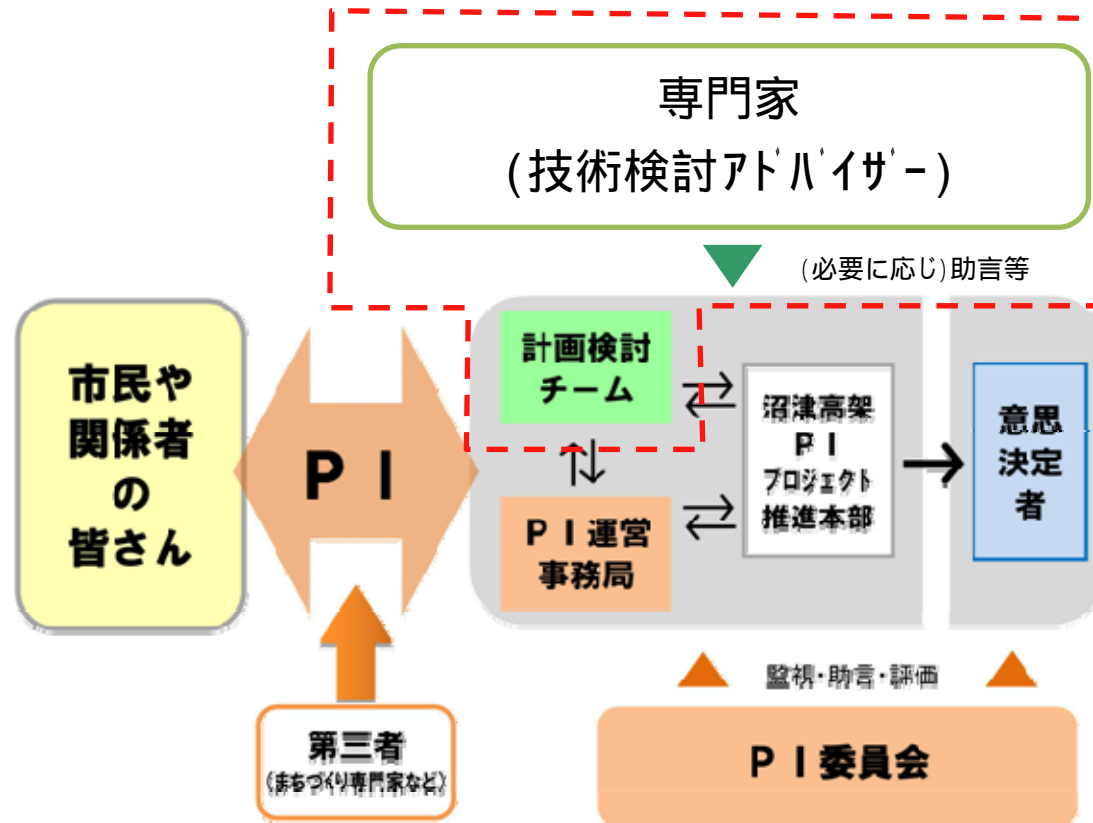
	実施計画での評価の視点	ステップ5での評価の視点(案)
5	市民や関係者との多重多層のコミュニケーションを行っているか	広報紙やオープンハウスなどを用いて市民的議論としての幅の広さが保たれているか？ 車座談議などの直接的な双方向コミュニケーションの機会を通じて、様々なステークホルダー(利害関係者)との対話が継続されているか？
6	積極的かつ適切に情報を提供しているか、十分に意見を聴き、論点を把握しているか	勉強会での議論の状況を広報紙や車座談議などの手法を通じて広く共有するとともに、多様な意見を把握し、論点を整理しながら進めているか？ ステップ5では非常に込み入った難しい内容になってくるが、分かりやすく伝えるような努力がなされているか？
7	PI委員会の助言を踏まえて、適切にPIを実施しているか	<u>PI委員会の助言に対して、適切な対応がなされているか？</u> 1)女性や若年層を含め、より広範に議論の経過を継続的に情報提供すること。 2)時間管理概念を再度認識し、俯瞰的な議論となるよう努めること。 3)地域づくりの目標に立ち返りながら互恵的な議論とすること。

【審議事項 4】
技術検討アドバイザーについて

技術検討アドバイザー

PI実施計画 ~ 実施体制 ~

- ・計画検討チームは、技術的な計画検討を行います。必要に応じ、専門家から助言を受けながら進めます。



技術検討アドバイザー

【石田委員長からの助言】

- 計画検討チームは、沼津高架PIプロジェクトに関する技術検討アドバイザーを速やかに設置すること。技術検討アドバイザーは計画検討チームの技術的検討について、監査・指導することを主たる任務とする。
- 技術検討アドバイザーは、PI委員会が推薦する。